

# 活動報告書

## 今月の主な活動

気づけば2回目の手編みニット展の季節でした。去年に続きチラシの作成をお手伝いさせていただきました。

手編み、かぎ針感を出してほしいとなかなか難しいリクエストをもらった去年のデザインから今年は去年の出展作品で印象に残っていたきれいな青緑のグラデーションの作品から色を応用させていただきました。去年に比べ撮影した写真もあったため、出展者の作品なども使えたのでよりイメージの湧きやすいチラシになったのではないかと思います。

毎月1回富岡シルク推進機構と同行させていただいている県内の企業とのミーティングでは養蚕・シルクの現状の問題や使える素材など外から見ているだけでは分からない話が多く商品開発やビジネスモデルを考える上で参考になることが多くあります。富岡に来たばかりの頃はシルク製品が作れない、売れないのが問題かと思っておりましたが、商品化するには繭の養蚕量が絶対的に少ない状態だと分かりました。それでも国産シルクが減っている中で富岡市が繭の生産量日本一なのであればそれは地域特性としてアピールできるポイントだと思います。

なにかヒントはないかと本を漁っていると、ときめく片付けの魔法で有名なこんまりメソッドをプロデュースしている川原卓巳さん著の「Be Yourself」にたどり着きました。読んでみるとこんまりさんとのエピソードで「シルクのパジャマで自分を大切に」というお話がありました。実際にプレゼントされたシルクのパジャマを着て寝てみたらジャージで寝ていた生活から10段階くらいアップグレードされた気持ちになり幸福感に満たされた。シルクのパジャマを着る行動が自分を大切にすることに繋がるという。こんなシルクに好都合なPRポイントが書かれているのに、実際にシルクのパジャマを検索してみると同じような無地の中国製のばかりが出てくる。それでも2万円前後するので国産シルクだとさらに高いから作り手がいないのかもしれない。パジャマは形に大差はなく、生地、柄、サイズ程度しか選ぶポイントはない。だとすれば、オリジナルデザインと産地限定のシルクで唯一無二のオリジナルができるではないか！とときめいたものの、繭が足りない。さて、繭をどうするか。限定数にするとしてもパジャマは上下あるのでそれなりに生地が必要。今後の産業課題は繭の生産量を増やすことだと思っています。とはいえ、私が農家になることで補えるような話でもなく技術も必要、場所も必要。養蚕業はファミリー経営から地域産業経営へ進化できるのだろうか。量より質、モノよりマインドが重視される時代に適応できる古くて新しい新明治時代の渋沢チャンスはあるような気がしています。

